

演題：鶏の体腔内腫瘍

機関名：千葉県東総食肉衛生検査所

氏名：綿村 崇宏

動物名：鶏

品種：名古屋コーチン

性別：雄

日齢：134 日齢

発生状況：平成 26 年 2 月 25 日に管内大規模食鳥処理場で処理された鶏のうちの 1 羽で、当該農場からの搬入は 1 ロット、222 羽であった。

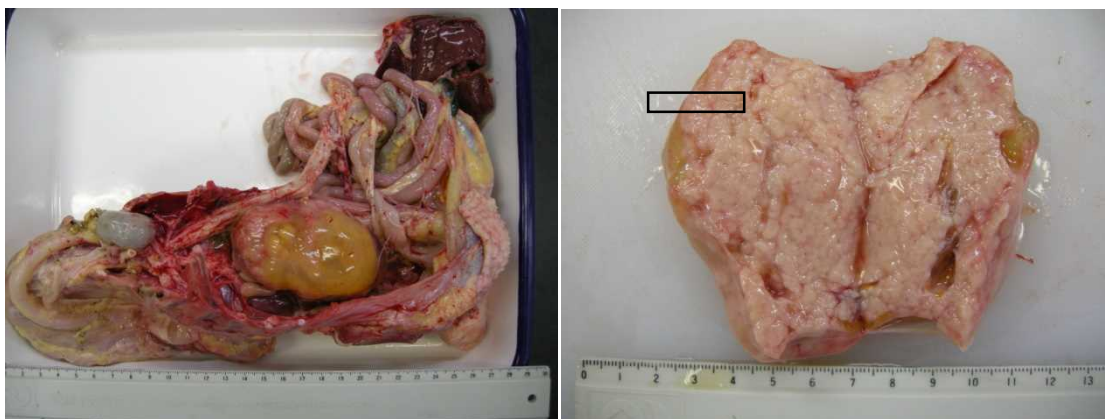
生体所見：異常は認めなかった。

肉眼所見：体腔内に 80×50×50mm 大の乳白色の腫瘍を認めた。腫瘍は被膜に覆われ、黄色透明な液体を有する嚢胞が散在し、弾性硬であった。断面は充実し乳白色を呈していた。腫瘍は左腎前葉から発生しており、左腎中葉及び後葉実質は退縮し 5～10mm 大の嚢胞を複数認めた。右腎は軽度に腫大し、3mm 大の白色結節が 1 つ、2mm 大の嚢胞が複数あった。

組織所見：腫瘍部には、類円形の核を持つ短紡錘形細胞がびまん性に増殖する部位と、上皮様細胞が管腔状及び腺状に増殖し、尿細管様の構造を形成する部位及び紡錘形細胞や膠原線維が増生する部位とが混在していた。好酸性物質を貯留する嚢胞も認めた。左腎中後葉には、嚢胞を多数認め、一部に前葉同様の所見も認めた。右腎の大部分には腎臓の構造があるが、白色結節部には左腎前葉同様の所見を認めた。免疫染色では、短紡錘形及び紡錘形細胞は抗サイトケラチン抗体 (AE1/AE3:Dako) に陰性、抗ビメンチン抗体 (Vim3B4:Dako) に陽性を示し、上皮様細胞は抗サイトケラチン抗体に陽性、抗ビメンチン抗体に陰性を示した。PCR 法により、腎臓及び脾臓から ALV の遺伝子が検出された。

固定方法：20%中性緩衝ホルマリン

切り出し部位 (図示)



行政処分：全部廃棄 ・ 一部廃棄 (全身性の腫瘍)

組織診断名：鶏の腎芽腫 (上皮型)

疾病診断名：ALV の関与が疑われる鶏の腎芽腫